

なめいし 滑石遺跡の特徴

滑石遺跡では、縄文時代の様々な時期の遺構や遺物が確認されました。早期から中期にかけては、同じ時期とみられる遺構の数が少なく、土器などからうかがえる活動の継続期間も短いとみられることから、小規模かつ短期的な集落や活動地点として利用された場所であったようです。一方、後期末から晩期にかけては、竪穴住居跡数棟が確認され、土偶や石棒など祈りの道具も出土することから、小規模ながらも、一定期間継続的に集落が営まれていたと考えることができそうです。

阿武隈高地に連なる山野や阿武隈川流域を生活の舞台とし、狩猟や漁労、木の実やイモ類の採集を生業としていたとされる縄文人の暮らしぶりや、地域の歴史を考えるうえで、貴重な資料が発掘されつつあります。

縄文時代の移り変わり		
約 15000 年前	草創期	【滑石遺跡】
約 11000 年前	早期	SK06
約 7000 年前	前期	SK55
約 5000 年前	中期	SI08
約 4000 年前	後期	SK22 SI03・SI10
約 3000 年前	晩期	
約 2400 年前		

なめいし

滑石遺跡発掘調査現地公開資料

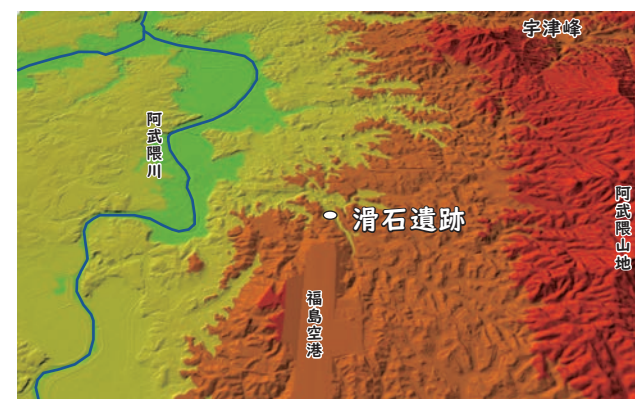
滑石遺跡は、須賀川市狸森にある縄文時代を中心とする遺跡です。国土交通省福島河川国道事務所が実施する阿武隈川上流大規模災害関連事業調整池整備工事に伴い、文化財保護法に基づく埋蔵文化財の保護措置として発掘調査を行っています。

所在地：須賀川市狸森字滑石 調査面積：7000 m²
調査機関：福島県教育委員会・公益財団法人福島県文化振興財団
調査担当：公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部
調査期間：令和5年5月1日～11月30日（予定）

滑石遺跡は、福島空港建設に先立つ事前調査で昭和58(1983)年に見つかりました。

遺跡は、北流する阿武隈川の東、樹枝状に尾根が広がる丘陵地にあります。周囲を細い尾根と谷に囲まれた段丘状地形に立地しており、東側は売田川をはさみ、阿武隈山地の西縁に続く丘陵が展開します。

今回の発掘調査では、土坑（縄文時代早期、前期）、竪穴住居跡・炉跡（中期）、竪穴住居跡・土坑（後期末から晩期）、掘立柱建物跡（時期不明）、畝溝（時期不明）などが検出されました。出土品としては、各時期の縄文土器、石器（石鏃・石槍・打製石斧・すり石・くぼみ石・敲石・石皿）、土製品（土偶、土鍾）、石製品（石棒）などがあります。



滑石遺跡発掘調査現地公開 2023年10月14日

主催 福島県教育委員会・公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部
共催 須賀川市
協力 国土交通省福島河川国道事務所、福島空港事務所

滑石遺跡出土の縄文土器





竪穴住居 (SI08) の炉跡 (縄文時代中期後葉)



土器 (縄文時代早期後葉) が出土した土坑 (SK06)



落とし穴 (SK38: 縄文時代)



掘立柱建物跡と作業員さん



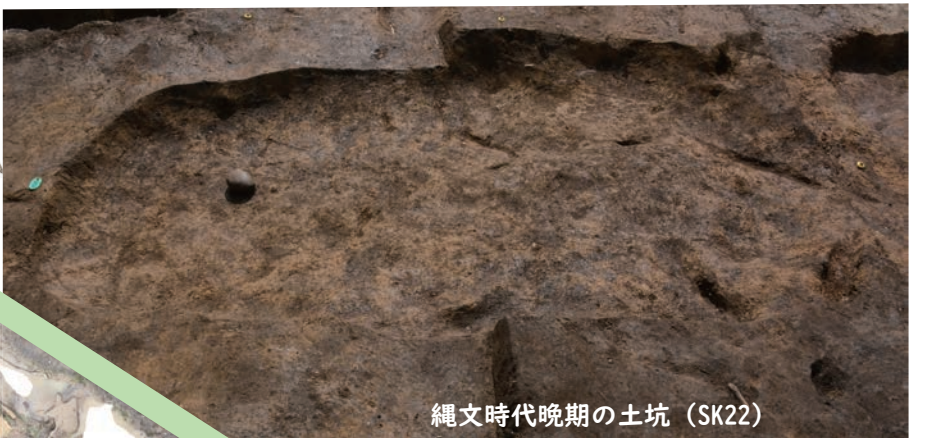
縄文時代前期の土坑 (SK55)



竪穴住居 (SI10) の炉跡 (縄文時代後期～晩期)



竪穴住居跡 (SI10)



縄文時代晩期の土坑 (SK22)



発掘調査の様子



畑の耕作痕跡 (時代不明)



SB02Pi+2
柱の痕跡が残る土層

